

令和5年産(4年播)麦生育情報 No.5 (R5.4.7)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

(次回は5月中旬の予定)

滋賀県近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

1 気象経過と生育状況

① 気象の経過 (彦根気象台、平成25～令和4年の平均値との比較)

期間	要素	平均気温	日照時間	降水量
	2月	全般	やや高い	平年並
3月	上旬	かなり高い	かなり多い	少ない
	中旬	かなり高い	平年並	平年並
	下旬	かなり高い	平年並	平年並

注) 平均気温 <±0.5℃:平年並、±0.5～1.0℃:やや高い(低い)、±1.0～2.0℃:高い(低い)、±2.0℃<:かなり高い(低い)
 日照時間 <±5hr:平年並、±5～10hr:やや多い(少ない)、±10～15hr:多い(少ない)、±15hr<:かなり多い(少ない)
 降水量 <±10mm:平年並、±10～20mm:やや多い(少ない)、±20～30mm:多い(少ない)、±30mm<:かなり多い(少ない)

② 生育状況【農業技術振興センター麦類作況調査(3月31日現在)より】

- 「農林61号」は平年に比べ、茎数は少なく、草丈は長く、葉数は0.6枚多い。
- 「ふくさやか」は平年に比べ、茎数はやや少なく、草丈は長く、葉数は0.1枚少ない。
- 「びわほなみ」は平年に比べ、茎数は少ないが、「農林61号」と同程度である。
 また、草丈は平年並で、葉数は0.1枚少ない(表1、後掲グラフ)。
- 「農林61号」は出穂期、「ふくさやか」および「びわほなみ」は穂ぞろい期を迎えており、生育は平年より8～9日早いと想定される(表2、4月6日現在)。

表1 令和5年産(4年播)麦類作況調査の結果 農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種名	年次	3/15 調査			3/31 調査		
		茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数 (枚)
農林61号	令和5年産 (平年比)	640 (92)	41.5 (119)	8.4 (+0.6)	508 (78)	64.7 (124)	9.4 (+0.6)
	平年	697	34.9	7.8	648	52.1	8.8
ふくさやか	令和5年産 (平年比)	614 (95)	42.1 (117)	8.2 (+0.3)	540 (89)	67.9 (125)	8.7 (-0.1)
	平年	649	36.0	7.9	606	54.4	8.8
びわほなみ	令和5年産 (平年比)	632 (77)	42.1 (101)	8.4 (+0.2)	530 (72)	61.0 (104)	8.9 (-0.1)
	平年	816	41.5	8.2	739	58.4	9.0

※播種日: 令和4年11月4日。

※平年は平成25～令和4年産(平成24～令和3年播)の10年間の平均値。

※「びわほなみ」の平年は平成28、30年～令和4年産(平成27、29年～令和3年播)の6年間の平均値。

※播種量は8kg/10a条播(条間25cm)。

☆ 3月31日現在の小麦の生育状況(農技センター作況調査)



「農林61号」



「ふくさやか」



「びわほなみ」

表2 令和5年産(令和4年播)麦類作況調査の生育時期

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準播種日	農林61号			ふくさやか			びわほなみ			ニューサチホゴールド			ファイバースノウ										
	11/5	11/20		11/5	11/20		11/5	11/20		11/5	11/20		11/5	11/20									
産年	R5	平年	較差	R5	平年	較差	R5	平年	較差	R5	平年	較差	R5	平年	較差	R5	平年	較差	R5	平年	較差		
出穂期	4/6	4/14	-8	未	4/21		4/2	4/10	-8	未	4/19		3/29	4/7	-9	未	4/15		3/19	3/25	-6	未	4/14
開花期	未	4/25		未	4/29		未	4/22		未	4/28		未	4/19		未	4/24		-	-	-	未	4/21
成熟期	未	6/4		未	6/7		未	6/1		未	6/4		未	5/30		未	6/3		未	5/14		未	5/25

※平年は、「農林61号」、「ふくさやか」、「ファイバースノウ」は10か年分(2013～2022年産)、「ニューサチホゴールド」は3か年分(2020～2022年産)、「びわほなみ」は6か年分(2016、2018～2022年産)の平均値。

2 県内の状況

- 3月の気温がかなり高く、全体的に生育は進んでいる。「びわほなみ」および「ふくさやか」では一部のほ場で穂ぞろい期を迎えている。
- 生育が平年と比べて1週間程度進んでいることから、早めに出穂期、開花期を確認し、実肥施用や赤かび病防除が適期に行えるように注意する。

3 今後の管理

(1) 排水対策

○排水不良は、根の伸長を妨げ、登熟期にまで影響が及び、収量および品質低下を引き起こすので、溝に水がたまる場合には溝さらえを行うなど速やかに排水するよう、引き続き徹底した排水促進に努める。

(2) 小麦の実肥施用

- 小麦の実肥施用は、開花期（平年の出穂期では出穂 10 日後頃）に行う。
- 実肥は、窒素成分で 3～4 kg/10a 施用する。ただし、茎数の少ないほ場（約 300 本/㎡以下）では、2～3 kg/10a に減らす。
- 3月下旬～4月上旬に葉色が淡く茎数が少ない場合は、収量を向上させるために出穂 7 日前（走り穂が出る直前頃）に窒素成分で 2 kg/10a 程度追肥し、さらに出穂 10 日後（開花期）に 2～4 kg/10a の実肥を施用する。

(3) 赤かび病防除

○小麦

- ・「びわほなみ」は、開花始め～開花期（平年の出穂期では出穂 5～10 日後頃）とその 7～10 日後頃に農薬を計 2 回必ず散布する。
- ・「びわほなみ」以外の小麦は、開花始め～開花期に農薬を散布する。

○大麦

- ・二条大麦では穂揃い 10 日後頃に農薬を散布する。散布後降雨が続く場合は、追加防除を行う。
- ・六条大麦では開花始め～開花期とその 7～10 日後頃に農薬を計 2 回散布する。

○薬剤散布後、降雨が続く場合は、直前の散布の 7～10 日後頃に追加防除を行う。

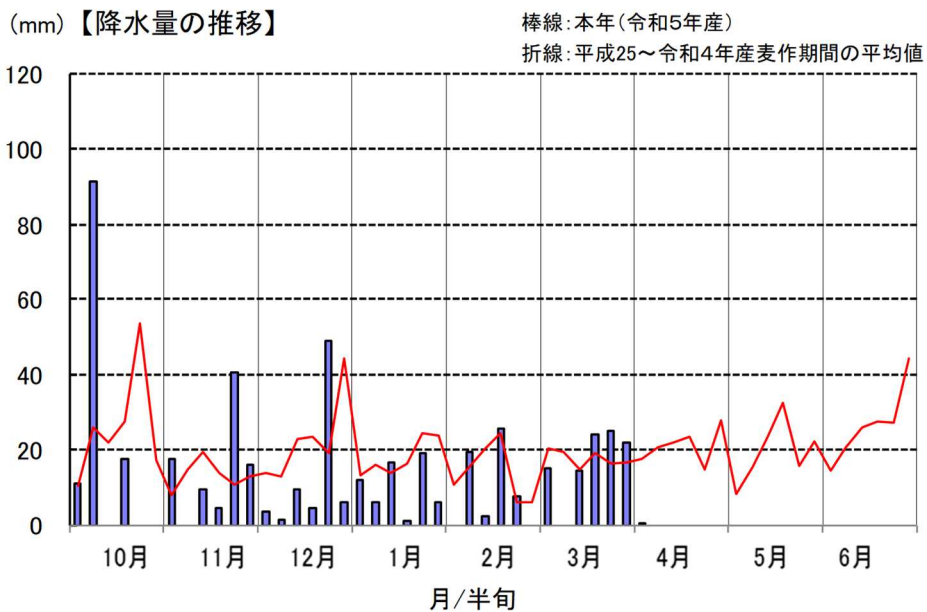
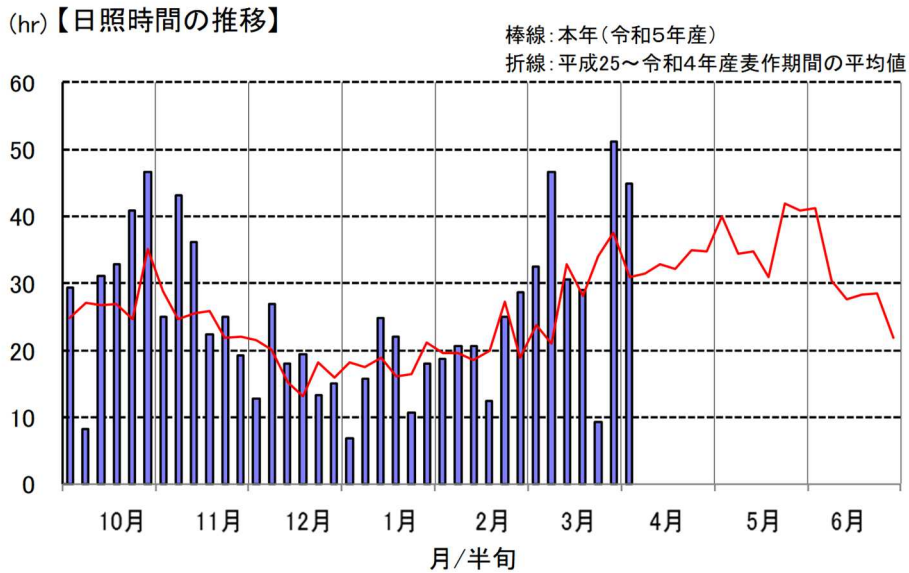
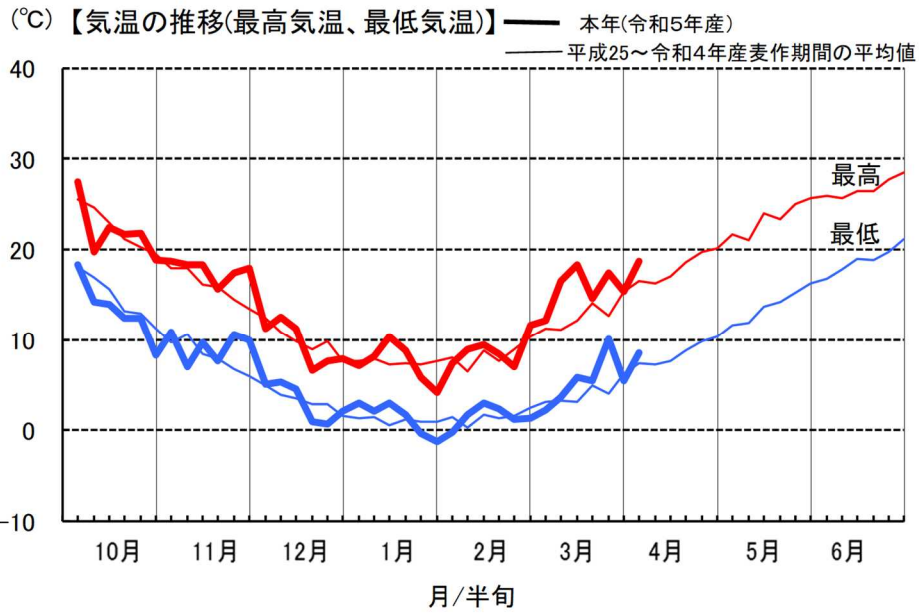
（実肥施用、赤かび病防除における留意点）

- 小麦の出穂期や開花期は気温によって変動するため、出穂期、開花期の確認を早めに行い、実肥や防除が適期に行えるようにする。
- 出穂後の低温で開花が遅れるなど、必ずしも出穂に連動して開花が早まるとは限らないため、赤かび病防除は開花を確認してから実施する。

【参考サイト】

農業技術振興センター	http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/
病虫害防除所	http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/
彦根地方气象台	http://www.jma-net.go.jp/hikone/
早期天候情報	http://www.jma.go.jp/jp/soukei/

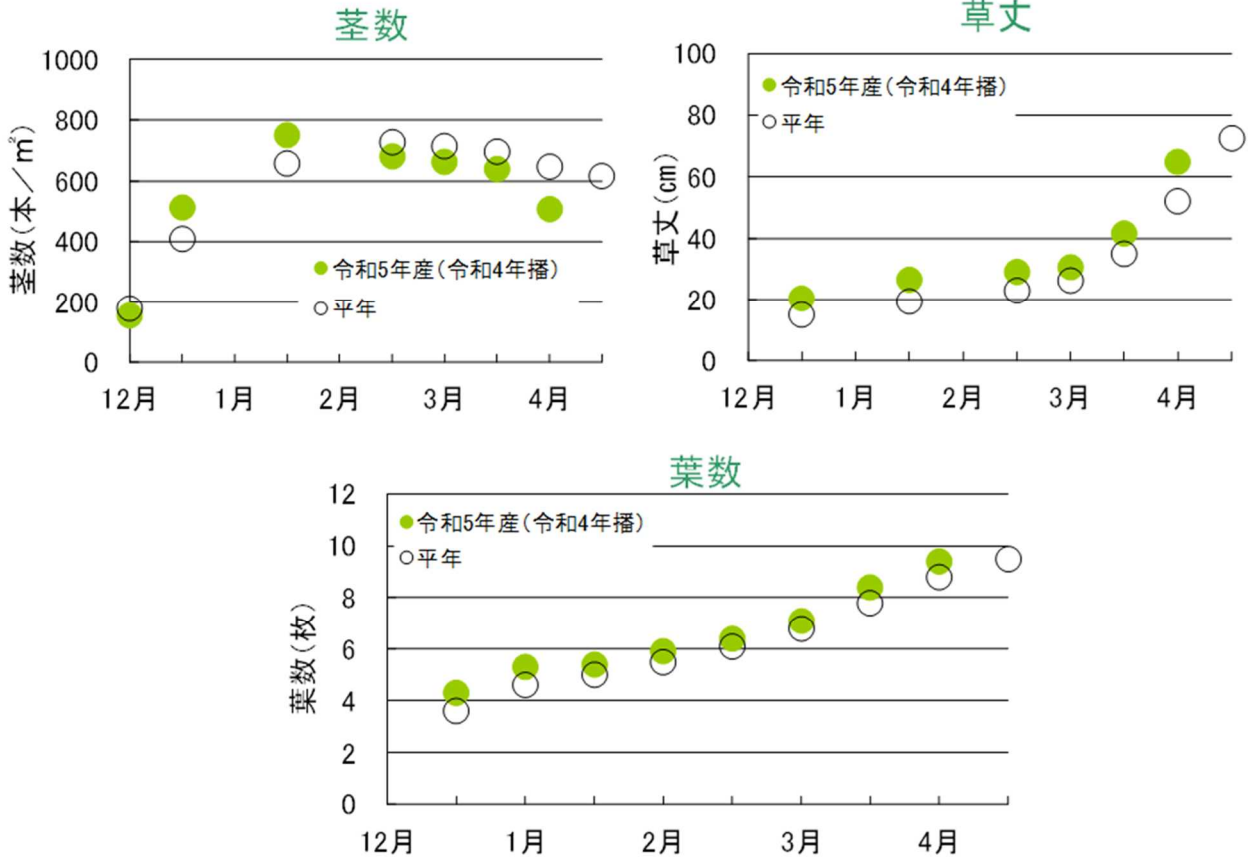
令和5年産(令和4年播) 麦作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)



令和5年産生育調査結果(1)

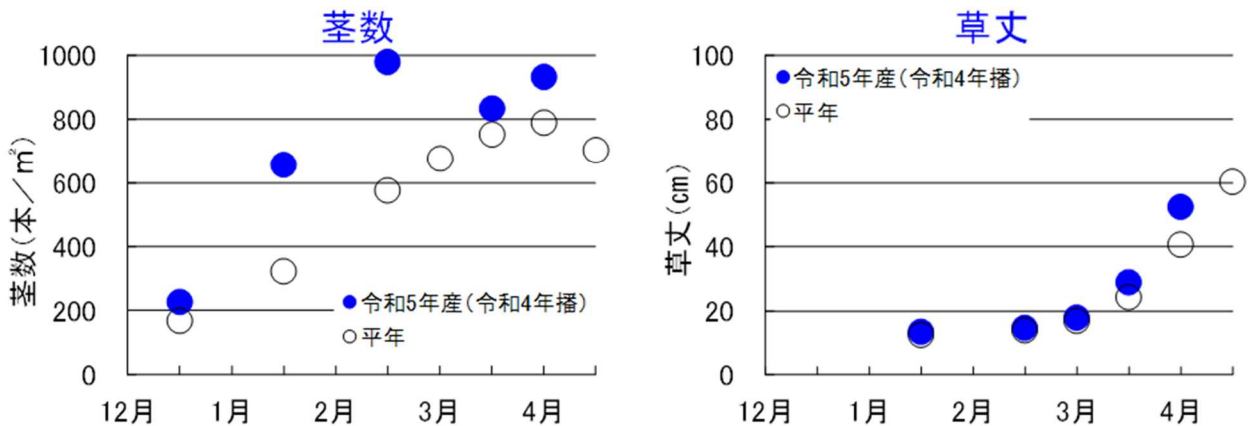
「農林61号」

令和4年11月4日播



(参考)

令和4年11月18日播

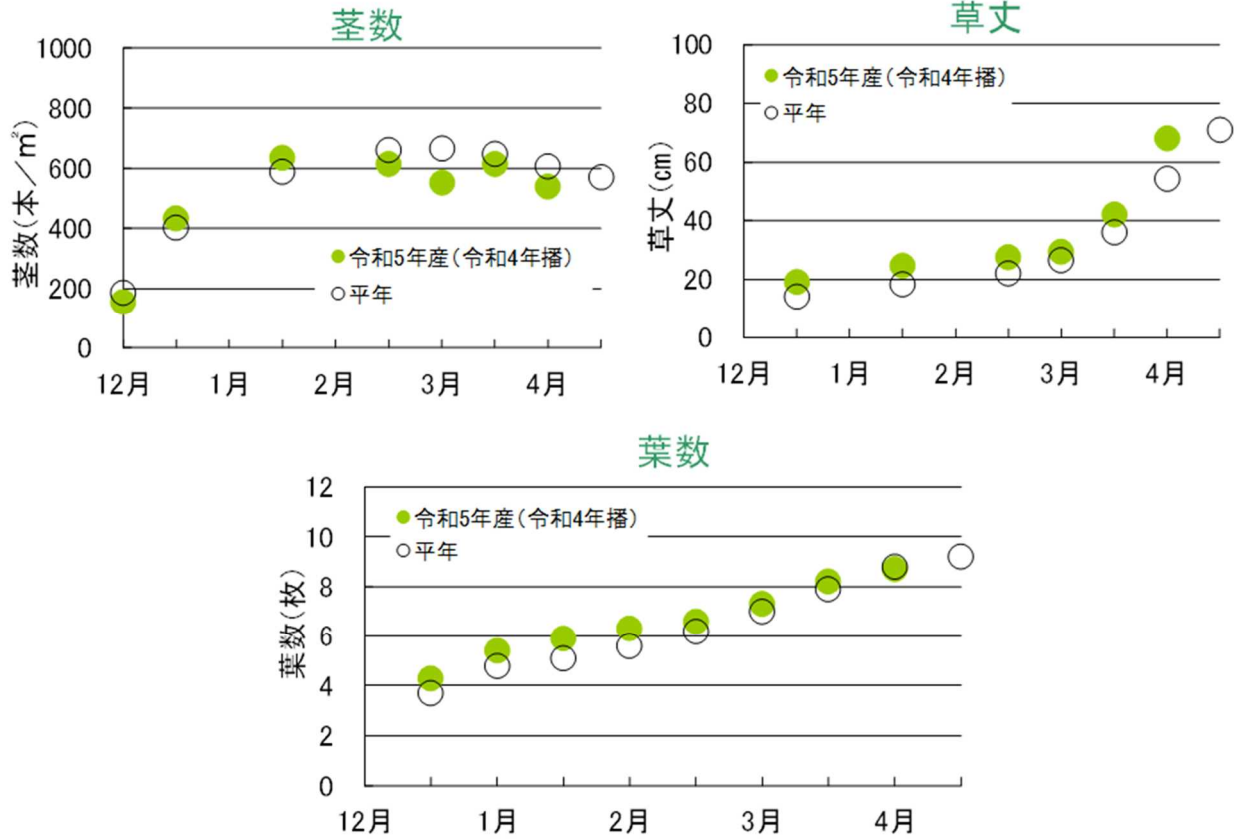


※草丈、茎数、葉数の平年値は、平成25～令和4年産(平成24～令和3年播)の10年間の平均値。

令和5年産生育調査結果(2)

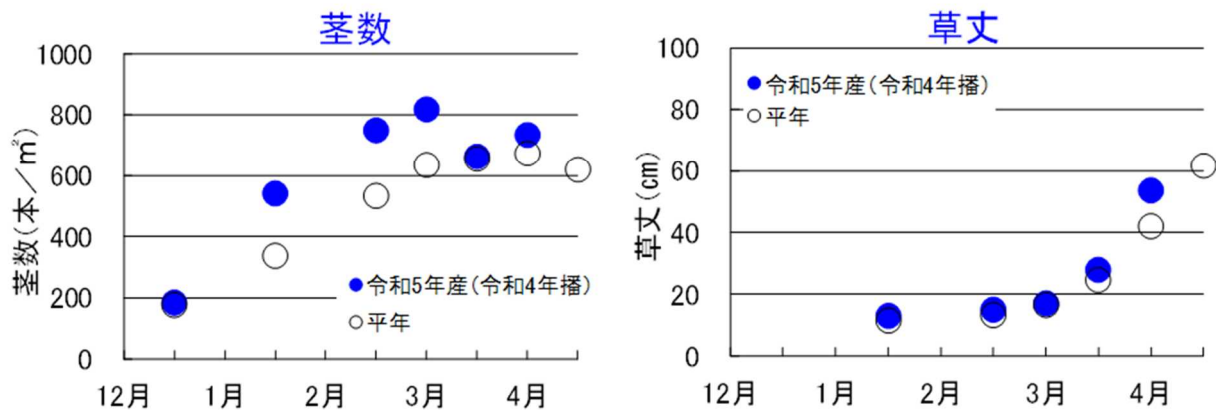
「ふくさやか」

令和4年11月4日播



(参考)

令和4年11月18日播

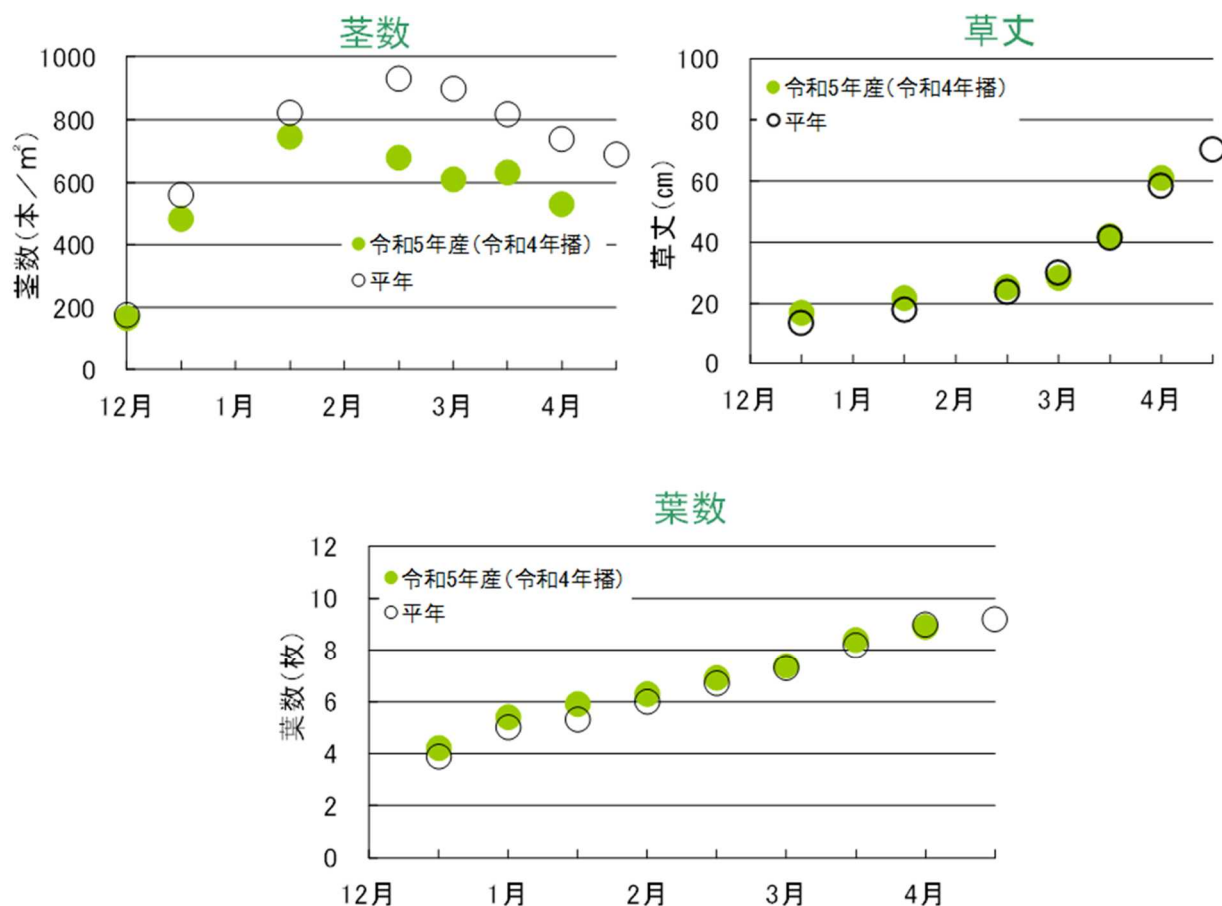


※草丈、茎数、葉数の平年値は、平成25～令和4年産(平成24～令和3年播)の10年間の平均値。

令和5年産生育調査結果(3)

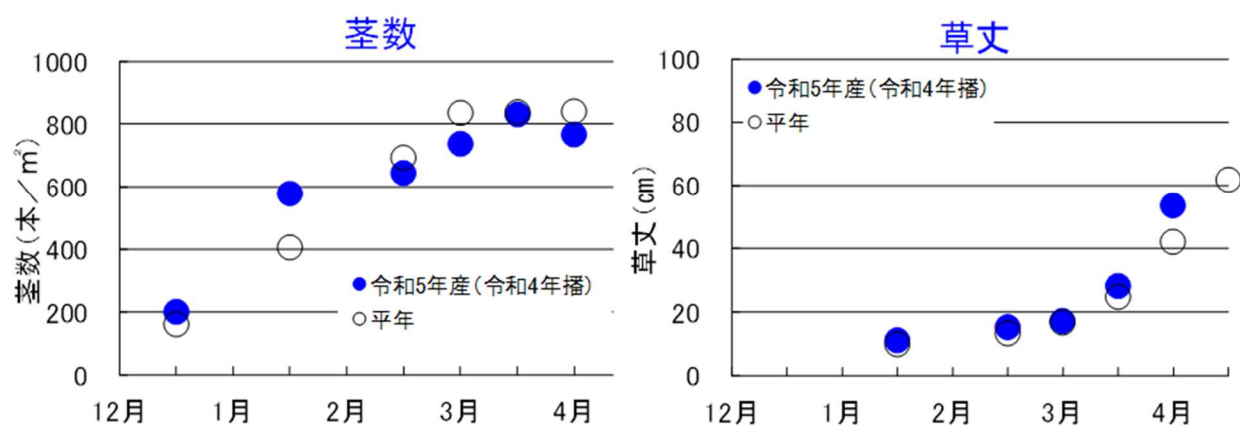
「びわほなみ」

令和4年11月4日播



(参考)

令和4年11月18日播



※草丈、茎数、葉数の平年値は、平成28.30～令和4年産(平成27.29～令和3年播)の6年間の平均値。